

学校運営協議会 議事録

校名	府立 守口支援 学校
校長名	青木 康子

開催日時	令和 8年 2月 13日 (金) 15 : 30 ~ 17 : 00
開催場所	B棟2階 図書室
学校運営協議会委員	長谷川 陽一会長 (桃山学院大学教授) 間宮 大輔副会長 (守口市教育センター長、欠席)、森口 久子委員 (学校医)、盛田 昭一委員 (錦コミュニティ協議会会長)、津島 貴子委員 (門真公共職業安定所統括職業指導官)、藏満 翔子委員 (PTA会長、欠席)
本校教職員	青木校長、古賀教頭、永山教頭、松岡事務長、下田首席、西川首席、竹縄首席、坂上高等部主事、南中学部主事、和田小学部主事 (欠席)、堀川健康安全部長、築山進路指導部長、安藤支援自立活動部長、坂和研究推進部長、万代養護教諭
傍聴者	0名
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 学校教育自己診断集計結果報告 ・令和7年度 学校経営計画についての総括と今後の課題 ・令和8年度 学校経営計画
備考	

議題等(次第順)

- 1、学校長挨拶
- 2、学校運営協議会会長挨拶
- 3、令和7年度学校教育自己診断集計結果報告
- 4、令和7年度学校経営計画の総括と今後の課題について
- 5、令和8年度学校経営計画について
- 6、各学部等からの教育活動報告
- 7、委員からの質疑・協議等
- 8、連絡事項

1、学校長挨拶

インフルエンザや発熱・嘔吐により欠席増。先週は総計24名(小11・中11・高5)。今週は減少傾向。感染症予防として手洗い・マスク・換気を継続。次年度の学級数の見通しは小学部2学級増、中学部2学級増、高等部1学級増の見込み。

2、学校運営協議会会長挨拶

学級増の見通しは課題ともいえる敷地の問題にもつながるが、子どもの学びを支援していきたい。令和8年度学習指導要領改訂の動向が明らかになってきている。支援学校全体の課題として自立活動における子どもたちの主体性を引き出す重要性等があげられている。守口支援学校の強みとも言える自立活動の充実に向けて引き続き取り組まれることを期待する。

3、学校教育自己診断集計結果報告 (担当首席)

・教職員の回収率100%達成、中でも教職員間の相互理解については、70%目標→99%に達成できた。その他改善できた項目も複数あり、今年度取り組んだ 伴走型支援の結果とも考えられる。

・保護者回収率は目標達成できず、安心メールで呼びかけた。アンケート形式はウェブは不慣れな方もまだまだ多いため次年度もウェブではなく、紙媒体での使用を考えている。

・ホームページを活用したブログは高評価を得ることができた。

・保護者自由記述報告(教頭)

(要望)

・門真市在住の小中学部保護者から、高等部でも守口支援に通わせたい。

・授業形態を縦割り(複数学年でのグループ分け)ではなく、学年進行でしてほしい。

・参観週間は複数日から選択できる自由度はあるが、保護者として行かなければならないと思ってしまう負担感がある、児童生徒も不安定になりやすい、など様々な声。

・教員の過重労働、教員不足の心配。

(肯定的意見)

・登校不安、行き渋りの児童生徒に対し、先生方の真摯な対応で改善できた。

・「守口支援学校に通えて本当に良かった」、「素敵な先生ばかりで驚いている」との感謝の声多数。

○結論

- ・他の委員からの特に意見はなく、学校教育自己診断については了承された。

4、令和7年度 学校経営計画について総括と今後の課題（校長）

- ・概ね順調に進行。多くの数値目標は達成。課題となった項目は次年度に改善継続。
- ・教職員の協力体制の強化が成果として顕著である。
- ・ストレスチェック指数：106 → 100 と改善。メンタルヘルス研修やコミュニケーション施策が効果を示している。

5、令和8年度 学校経営計画について（校長）

- ・重点目標「キャリア教育の推進」「基礎学力の向上」「安全安心の確保」「地域連携の強化」
- ・大きな変更はない。相互理解を深め、信頼関係を深めて次年度へと繋げていきたい。

6、教育活動についての報告と意見交換

各学部より各学年の行事の様子を画像とともに紹介

【小学部】

- ・生活科「わたしたちの町」学習でららぽーと門真へ。買い物学習、卒業生へのプレゼントラッピングを購入。
- ・守口市・門真市消防組合にて煙体験・消火器体験を実施。児童は恐怖心を乗り越え積極的に参加できた。

【中学部】

- ・錦中学校と交流活動を実施。猛獣狩りゲーム、時限爆弾ゲームなど共同活動で交流を促進した。事前学習や本校・錦中の三年生同士の交流も実施できた。
- ・寝屋川支援学校との交流では重度・軽度の生徒が互いに助け合う姿が見られた。

【高等部】

- ・修学旅行（東京方面）では、雷おこしづくり体験、浅草散策、スカイツリー見学をした。ディズニーシーでは自主的な行動・買い物・乗り物体験ができた。国会議事堂（参議院）での見学。
- ・地域交流としては、ひまわり栽培を地域コーディネーターから学び、錦小・中学校へプランターを持って行った。
- ・芦間高校の文化祭に参加、各クラスでの出し物を楽しんだ。
- ・作品展、販売実習ではiPadによる会計処理、領収書発行など実践的な学習や呼び込み・接客・商品説明など意欲的に実施した。
- ・マラソン大会は鶴見緑地で開催した。最大 5.3km を完走する生徒もいた。

【伴走型支援プロジェクト報告】

- ・朝の連絡会の ICT 化 → 教員の98%が「良い」と回答
- ・保護者懇談の在り方を見直し → 来年度は短縮授業及び会議無し期間の設定を検討
- ・宿題の定義の明確化 → 来年度保護者に正式周知
- ・9月プール授業の廃止（2期制導入に伴う）

7、質疑・協議事項

○事前に意見集約した質問への回答

①今年度の学校経営計画の進捗状況について

『AI研修についての説明がほしい』

→（総務情報部から回答）

府立学校対象の「Microsoft 365 Copilot Chat活用研修（日本マイクロソフト株式会社）」の伝達講習をベースに、AIの概要とその活用例、生成AIを授業で活用するのにアプリによっては年齢制限、保護者同意が必要であること、プロンプト（指示や質問）の重要性、プロンプト作成の補助フォームの紹介。

『教職員間の信頼関係が99.1%である同僚性は、一人ひとりに応じた支援教育の質を支える最大の基盤。「伴走型支援」を通じて業務改善が進み、先生方に心の余裕が生まれつつある点は、子どもたちの微細な変化に気づく感度を高める上で非常に大きな成果。一方で、ICT活用や進路指導の目標未達成については、学校側の専門的な実践を保護者の「実感」へと繋ぐコミュニケーションに伸びしろがある。この高い組織力を活かし、次年度は「伝わる工夫」へのさらなる注力を期待。』

●→（総務情報部）

ICT活用については、専門的な実践を積み重ねている一方で、その取組が保護者の方の「実感」として十分に伝わっていない点は、情報発信の課題であると受け止めている。情報担当としては、「何をしているか」「それが子どもにどう役立っているのか」が具体的にイメージできる形で伝えられるよう、発信の方法や頻度を見直す必要があると考えている。次年度は教育庁から示された府立支援学校におけるICT活用ビジョンを活用し、1人1台端末の活用促進に向けたアクションプランを教員に共有、保護者に発信し、各児童生徒に3段階のチェックリストでの個別最適な使い方を検討、推進。保護者へのICT連絡ツールについては現在、「学校安心メール」にて保護者から欠席連絡や家庭での様子を24時間伝えられるようになっている。学校からも各種連絡を必要なタイミングで伝えられるようになっており、様々な対応に活用している。また、次年度は府立学校で推進している「さくら連絡網」の導入についても検討する。

●→（進路指導部）

・進路指導・キャリア教育に関する項目の数値は高水準を維持できている。保護者へ「繋ぐコミュニケーション」を今後も継続させる。

②各学部等からの教育活動報告

『各学部の報告から、12年間を見据えた一貫したキャリア教育の姿勢が強く伝わる。小学部の買い物学習、中学部での「生活のきまり」策定、高等部の販売活動など、発達段階に応じた社会との接点が丁寧に設計されている。特に高等部での進路指導のアフターフォローや同窓会の実施は、卒業後の自立を支える大きな安心材料。これらの素晴らしい実践が、学部を越えてさらに共有され、連続性のある学びとして深化することを期待。』

●→（進路指導部）

・アフターフォローや同窓会の取り組みについて、他学部でも共有する機会を模索していく。

③学校教育自己診断について

『昨年度の肯定率と比較して、下降した項目については、次年度に向けた検証や具体的な課題の検討が盛り込まれていると感じる。ただ、気になるのは、保護者回答にある「子どもたちが授業を楽しく、分かりやすいと言っている」への取り組み。今年度の検証と併せて授業改善の具体的な方向性等について、学部、分掌をはじめ、教科、学年等で教科横断的な協議及び実践されることが大切。』

●→（研究推進部）

→授業改善に向けて、研究協議の充実を図っている。先生方同士でコミュニケーションをとることができる機会を増やした。また、公開授業や部別研修を通して、様々な方々に授業を見学してもらい、意見をもらうことで授業改善につなげている。

●→（教務部）

→いただいたご指摘は、授業改善を学部や教科の枠を越えて組織的に進める必要性を改めて示していただいたものと受け止めている。今年度の取組を検証しつつ、来年度も引き続き教科等横断的な協議の場の設定や、共通した学びの視点をもつ授業づくりを強め、授業力・専門性を高めることで子どもたちの「楽しい・分かりやすい」をさらに確かなものにしていきたい。また、保護者への情報の発信にも力を入れていきたい。

『教職員間の信頼関係、人権を尊重した教育姿勢、防災や安全への取組など、多くの点で安定感のある学校運営がなされていることを心強く感じた。日頃の地道な取組が、教職員・保護者の双方から高く評価されているといえる。一方で、1人1台端末の活用や、いじめ等への対応については、学校側の取組に比べ、保護者には十分伝わっていない印象もうかがえた。実際に行われている活動や支援体制を、授業の様子や具体例とともに発信することで、学校の取組がより理解され、安心や信頼につながるのではないかと。今後も、学校の良さを大切にしながら、取組を「伝える」工夫を重ねていかれることを期待している。』

●→（総務情報部）

1の回答で説明した内容と重なりますので省略。

●→（児童生徒指導部）

→いじめ等への対応については、微増ではあるが、教職員の否定の意見が昨年度を上回っていると認識している。そのため、次年度も情報共有を密に実施し、今後もいじめ等のアンケートを活用し、学校全体で組織的に対応していることが個々の教職員が実感できるような工夫も検討する。

4 その他

『学習指導要領の改訂を控えて、今後の教育課程の在り方等を守口支援の強みとも言える学部間連携を活かして充実していただくことを期待している。』

●→（教務部）

次期学習指導要領は「深い学び」「多様性の包摂」「実現可能性」が柱となり、教育課程の柔軟化や情報教育の強化が示されている。本校では学部間連携を生かし、育成すべき力を整理し、学びの連続性を重視した教育課程づくりを進める。

『伴走型支援による朝の連絡会ICT化や、教職員の余白を生むための非常に前向きに業務改善をすすめており、先生方の心の余裕は必ず子どもたちへの質の高い関わりに還元される。今後も「みんなで作る」という哲学を基盤に、宿題の定義や懇談期間の見直しなど、既存の慣習を今の時代と実態に合わせて柔軟にアップデートを続けてほしい。』

●→（伴走型支援PT）

朝の連絡会ICT化をはじめ、業務改善により教職員の心の余裕を生み出す取組を進めてきた。これは子どもへのより良い関わりに直結するものと考えている。今後も学校慣習を実態に合わせて更新しながら、「みんなで作る学校」をさらに推進していきたい。

○当日の質疑・協議事項

・保護者のアンケートが、ウェブ回答が不慣れなので紙媒体でという話だったが、支援策の検討が必要。

→ウェブ回答にする理由は不慣れだけではなく回収率を高める理由もある。ウェブでの不慣れな方にもわかりやすいアンケートも検討していく。

・初任者を育成する体制は継続して検討が必要、コミュニケーションの必要性を改めて実感。

・地域の学校との交流学習は児童生徒の成長に大きく寄与している。

・不登校問題とライフプラン支援は非常に関わっている。

・いじめ問題について、保護者との認識の差はないように共有の重要性がある。

・9月にプール学習行わない理由は何か。

→9月は元々入水が少ないが、そのために8月の水質管理が負担になっていた。

・いじめ・不登校問題について心配している。学部のちがい、児童生徒によっても問題の特性は変わってくる。障がい特性、バスに乗るハードル、家庭環境など多様にあるが個々の状況をしっかり把握して対応してほしい。

○次年度学校経営計画中期目標について、承認された。

【8】連絡事項

委員の異動があれば、学校まで連絡。